



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2013

1

No.493



あけましておめでとうございます！

主任司祭 松村信也

新たな年を迎えた六甲教会は、『信仰年』も新たに年を迎えました。ようやく希望の光が見えてきたこの年、その光に向かって力強く新たな確信と信頼、希望のもとに信仰を改めて「宣言」し、典礼を通して信仰を熱心に「祝い」、同時にそれを生活の中で「証し」するようにと促されています。

“心機一転、心新たに光へ向かって歩む”どのように歩むのか、そんなことを考えていたある夜、六甲教会の古き良き時代の写真に目を走らせていました。戦後間もない頃から現在の聖堂献堂までの懐かしい写真の数々を興味深く見ていくうちに、あることに気づかされたのです。それはどの写真もみな喜んでいる人の顔ばかりなのです。それらはみな、お祝いごとの写真であったから、新しい教会・発展する教会共同体という明るい希望の光が見えていたからでしょうか。しかし、現在も希望がなくなったわけではないのです。希望はあるのに、その希望の光を別のところで探そうとしているのではないのでしょうか。希望の光は、イエスの言葉にあり、その言葉は教会共同体の中に、私たち一人ひとりの心の中にあるのです。

ところが多様な共同体の中には、多様な価値観がひしめき合い、これこそが一番とそれぞれ主張し、その結果“あれもこれも”と八方美人活動の疲れからか、喜びが消されているのです。喜びの無いところに人は、誰も集まりません。

そこで多様性の一致を活性化するには、先ず、①「教会に集う者すべて神から愛されている。」②「神の言葉を聞く為に神から呼ばれている者である。」③「主が心を引かれてあなたを選ばれたのは、あなたが誰よりも優れていたからではなく、誰よりも貧弱であった。」ことを想起するのです。私たちの共同体、それは神がイエスを中心にした輪(和)を切望しておられます。その輪は、信仰、希望、愛の輪です。

なぜならイエスは、私たちの為に「自分自身を捧げます。かれらも真理によって捧げられた者となるためです。」と父に向かって懇願されたのです。

新たな年、新たに信仰年を祝いながら、共同体の頭であるイエス・キリストを核として集う地区会の中で、“つながり”の輪が、さらに新たな確信と信頼を互いに深め、その“絆”が光となって輝くことが出来ますように。この絆こそフランシスコ・サビエルたちが体験した「宣教」の喜びであったでしょう。「宣教」、それは互いの信頼を深め、戴いた信仰を確信することによって日々の生活に喜びをもたらし、同時にまわりの人々にもその喜びを伝えることが出来るのではないのでしょうか。 神に感謝



忘れないで！

東日本の被災地から(10) “一つの部分が苦しめば”

南相馬市の原町教会の信徒会長から送られた「原町教会の近況」の中に「信徒数が少なく、高齢者が多い。しかし、何とかできる方々が集まってベースが始めた“野菜配り”の奉仕をしています。“1軒に500円分の野菜を配りたい”とベースが全国から寄付を募り、1つの仮設の全世帯に届けるのに十分な募金が集まったら、二本松の“野菜ばたけ”から野菜を届けてもらい、それを配って、次々と別の仮設に配るというシステムです。信徒の方々が一輪車で、仮設住宅の一軒一軒に声をかけながら配っています。先日は途中で雨が降り始め、持って行ったお弁当は仮設の自転車置き場で食べたとか。でも、写真を見ると、雨と寒さにもめげず、楽しそうなお弁当風景でした。厳しさの中でも何か“温もり”を感じさせられた記事でした。

また、「福島民報」の2012年12月4日号には「18歳未満の子ども16970人が県外に避難しており、南相馬市では、6,485人が避難している」と報告されているとのこと。南相馬市は大震災前の人口が7万1千人位ですから、約9%の人々が避難していることになるのでしょうか。前回ご報告したように、原町教会の幼稚園では、震災前には80人位いた園児が平成24年度当初は20人程になっていました。子どもの被曝を恐れて若い世代が避難し、「残っているのは高齢者」だけとも言われます。そのような中でも、避難していない人々の中には、子どもたちもいます。8月に訪問した時には高校1年生の女子生徒さんから「数学が遅れているので教えて欲しい」という希望がありました。「以前あった塾が撤退してしまって、教えてくれる人がいない。夏休みの宿題に出ている練習帳をしたい」とのことでした。私の専門分野ではありませんが、希望に応えたいと思いました。ヒントをあげられる所もありましたが、「数列」などが出てくると、「そこは分からないと思うわ。パス！後でやっというてね。」と言うと、彼女はニヤニヤしながら、「ハイ！」と答えて先へ進んでくれました。学校の部活の話をしているうちに、「小さい時からピアノを習っていましたが、震災後やめました」と言います。理由は、「先生が避難していかれたから」だそうです。

また、仮設で出会った若い母親も、「うちには中学生の女の子と小学生の男の子2人がいます。震災前には塾に行かせてていましたが、今は塾がなくなってしまいました。勉強を見てくれる人が欲しいでおっしゃっていました。家が遠いので、私が行くにしても、子どもが来るにしても、時間の調整もしなければならず、難しいものがあって、実現していません。その家族は、津波から父親の車で逃げました。「渋滞に巻き込まれて動けなくなり、一度海側に下りて、別の道から上に向かいました。津波と競争になりましたが、何とか助かりました。でも、それが娘にとってトラウマになっています。家と父が流されましたから・・・」ともおっしゃっていました。

一人ではたいしたことはできないのですが、何か「力になりたい！」と思うことが沢山あります。

Sr.小沢(マリアの宣教師フランシスコ修道会)



福幸商店街 ラーメン 1杯 380円から



混声合唱団「うみのほし魚崎サービスセンター」訪問（11月28日）お礼の便りが届きました。

平成24年11月28日、うみのほし魚崎サービスセンターでコーラスを披露して下さりありがとうございました。当日はサービスの利用者のみならず、グループホームの入居者も一緒に楽しませていただきました。

はじめの歌い出しから、圧倒されながらも利用者の皆様の反応が大変よく、一緒に口ずさんだり、手拍子が自然と発生したり、利用者もコーラスを聞くだけでなく一緒に楽しめている雰囲気が出来上がった事に大変嬉しく思いました。

普段はウトウトとしがちなIさんは、眠たくなることなく声を出して歌われていました。車いすで普段から目が閉じている事が多いOさんは、歌が始まった途端に、今まで見たことがなかったくらい大きな目を開けてコーラスに見入っていました。さらには背筋が曲がってしまっている事が多いMさんは、しっかり顔をあげて一緒に歌っている姿など、とても新鮮な光景が見られました。

Sさんは、コーラスの曲紹介のなかで大変乗り気の様で「ほな、踊ろうか？」と最前列で積極的に参加しながら、最後は「男の人が上手だったわ」と熱心に聞き入ってくれていた様子もうかがえました。Yさんも「外国の歌も全部知ってたわ。心地よかったわ」と終わった後も感想をこぼされていました。

100歳のAさんのお知り合いの方がコーラスされており、それを聞いて他の方々も握手をされるほほえましい場面もあり、ともに良い意味で堅苦しくなく、奏者とお客との距離の近さを感じたイベントでした。これからもこういった機会を大切にしたいと思います。ありがとうございました。（うみのほし魚崎サービスセンター 緒方）



『第11回クリスマスコンサート』（12月9日）

音楽の天使が舞い降りた？



12月9日、今年で11回目のクリスマスコンサートが行われ、ヘンデルのメサイアを歌わせて頂きました。エリックコロン先生、由子先生、諸先輩方のご指導のもと、5年目の参加となりました。

それまでは楽器演奏をかじったことがある程度で、40の手習いで始めた歌の世界はまったく未知の世界でした。最初は楽譜を追うことで精いっぱい、しかしエリック先生の大変ユーモラスで含蓄のあるご指導を頂いているうちに徐々に歌に夢中になっていきました。

序盤である曲を歌っていた時のこと、突然込上げてくるものがあり感無量で声を詰まらせてしまいました。まるで音楽の天使が舞い降りてきたような。きっとエリック先生の指揮のもと、楽器、合唱団の音が共鳴して響き合った瞬間だったのでしょう。でも、ひよっとすると共鳴したのは心だったのかもしれない。やはり音楽はいいですね。このような御縁を頂いたことに心から感謝しています。（テノール 田村）



クリスマスコンサート おめでとうございます。

12月9日、ポスターの絵にひかれるように、六甲教会で行われるメサイアのコンサートに足が向かっていました。

師走に入ると日本独特の気忙しさと騒々しさが街中に溢れ、だれもがその中に身を置き心が落ち着きません。そんな中このコンサートは私の心にほっとしたやすらぎの時を与えてくれました。キリストの降誕を待ち望むアドヴェントの時に、祈りを歌声にのせて私たち観客にすば



らしいメッセージを届けてくださいました。神への純粋な信仰心をお持ちの指揮者に導かれて歌われる歌声は透明で美しく私たち観客も神への讃美の気持ちが湧き上がって参りました。最後のアーメンを聞きながら、私も2008年にはカメラータの皆様と一緒にメサイヤを歌わせていただき、アーメンが難しくてちょっと気を緩めるとどこを歌っているのかわからなくなってどぎまぎした思い出しました。今年は観客席でアーメンのカノンを楽しませていただきました。聞かせていただいている私たちも幸せでしたが、歌っていらっしゃる皆様もお幸せだなあとうっとり、暖かい、そしてまあるい雰囲気に包まれました。

こんなに幸せな時間を頂いたからこそ、そしてアドヴェントの時だからこそ思いました。分かち合う心、許しあう心を大切にしなければ。平和に暮らしていることに感謝し、見えないところで苦しんでいる方々のことを忘れないようにしたいものだとも思いました。天に栄光、地に平和。

(黒田:カトリック住吉教会)



師走に入ると日本全国通津浦々にてメサイアコンサートが開催されている。規模の大小はともかくこれがないと気の抜けたわさびのようなクリスマスを迎えるような錯覚を覚える方もあると聞いている。六甲教会では、12月9日に恒例のメサイアコンサートが開催。年々グレードアップされているように感じたのは、私だけだったのだろうか。コンサートは一部、二部と分かれ、一部ではクラブごとのクリスマスキャロル、第二部はメサイアを総勢50名の大合唱団とメサイア室内楽アンサンブルによって歓喜のメッセージを荘厳に、コンサートを通して聴衆の心に運んだ。待降節、気の抜けたわさびのようなクリスマスにならないようにメサイアを毎年聴こうと気づかされた喜びのコンサートであった。

(健忘症の脱音痴より)



『第54回神戸市民クリスマス』(12月14日)

今年の6月から数回の会議を経て準備してきた「第54回神戸市民クリスマス」が12月14日(金)に行われた。50年以上続くこのイベントは多くの支えがあってこそ続くのであろう。

恒例の「キャロリング」は、今年3コースに分かれて行われ、私は北野の異人館「風見鶏の館」からスタートする北野コースに参加した。子供達も参加して総勢60人余りは、北野広場で数曲歌った後、「神戸バプテスト教会」に寄って歌い、メイン会場のカトリック神戸中央教会まで歩いた。天気予報では夜から雨の予想で、北野町の広場に集合している時にポツリと降ってきたので心配したがすぐ止み、キャロリング中は何とか降られないで済んだ。その上、例年は凍てつくような寒さだったけれど、今年は暖かく、いいキャロリングだった。



神戸中央教会に着くと、ホットコーナーではコーヒーや手づくりのお菓子、特製のシチューまで用意されていて、参加者は身も心も温まった。

キャロリングの元町コース(大丸神戸店→JR元町駅→パルモア病院→日本キリスト教団神戸栄光教会)と元町北コース(日本キリスト教団神戸教会→日本聖公会神戸聖ミカエル教会→日本キリスト教団神戸栄光教会)もメイン会場に戻り、いよいよ合同礼拝(祈りと祝福のとき)が聖堂で始まった。礼拝に先駆けて、神戸でもトップクラスのジュニアコーラス「ティンカーベル」(小学生から高校生の少年少女合唱団で創立15周年)のクリスマスソングや賛美歌のコーラスが披露された。広い聖堂に天使のような美しい歌声が響き、参列者もしばしうっとりとし聞き入っていた。



「祈りと祝福のとき」は、カトリックから神父 1 名、プロテスタントから牧師 3 名の礼拝奉仕者によって進められた。静かな、厳かなひと時は、参列したカトリック、プロテスタント教会の皆様方に今回のテーマ「心を結ぶクリスマス」を分かち合ういい機会を与えてくれたのではないだろうか。

礼拝が終わり聖堂を出ると、外は冷たい雨が降り始めていた。しかし、参列者の皆さんの心は、きっと春のような暖かい充実感で満たされたことだろう。

(蛭田)



『教会学校主催クリスマス会』“みんなで分かち合うクリスマス” (12 月 16 日)

12 月 16 日(日)10 時のミサ後、“みんなで分かち合うクリスマス”を行いました。今回で 3 回目になるこのクリスマス会、高校生男子 2 人によるユニークな司会により、毎年恒例の三日月会の方々の美しい歌声で始まりました。

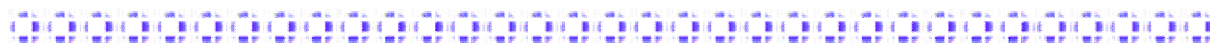
今回のメイン企画は、“みんなで作り上げる聖劇”でした。子ども達はマリア様や羊飼、片柳神父様はヨセフ様に、そして三日月会の 3 大歌手が勇壮な三博士を熱演、熱唱して下さいました。今回のクリスマス会は“みんなで作り上げる”ということに大事にしたいと思い、配役するにあたって 7 才～70 代まで万篇なくお願いさせて頂きました。そのため、全員が揃ったのは本番のみでしたが、それぞれの個性が私達に笑いや感動を与えて下さり、とても楽しい時間を過ごすことができました。



後半は昨年に引き続き、東北の子ども達、特に福島の子どものために共に祈りを捧げました。福島の子どもの未来への思い、カラフルな色で描く未来の絵・・・私達もこの子ども達と心を合わせて前に進むことができますように。教会学校の子ども達が歌う「しあわせ運べるように」がホールに力強く響きました。

最後になりましたが、この度のクリスマス会開催にあたり、三日月会をはじめご出演をお引き受け下さった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。素敵な分ち合いをありがとうございました。

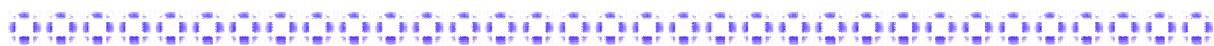
(教会学校クリスマススタッフ 窪岡)



『海星病院キャンドルサービス・私たちのクリスマス』(12 月 19 日)

久しぶりに海星病院へ来て、以前よりも若者や男性の支援者が多くなって看護に当たっておられる姿を見たのも思いました。病気の方、お世話される方々と共に、降誕祭を祝うためコーラスに参加させていただきました。和やかな温かい喜びに満ち溢れている中でクリスマスキャロルを歌い幸せでした。時に天使の服で参加した子どもたちとオマリー神父様との対話が楽しく、嬉しい思い出となりました。

この機会に病院の方々、お世話してくださるすべての方々のため、真の命の主が大きな喜びをくださいますよう、お祈りいたします。
(Sr.土屋：援助修道会)



『クリスマス音楽の集い』（12月23日）



「クリスマス音楽のつどい」が12月23日（日）に開かれました。いつものオルガンメディテーションと少し趣を変え、六甲教会ゆかりの音楽家、演奏グループが集まり、クリスマスを讃美する音楽会となりました。

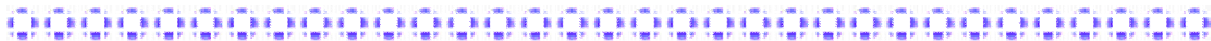
第1ステージは、松村主任司祭のメッセージを受け、ソプラノ独唱をまじえたオルガン、バイオリン、ビオラ、フルートなどの器楽を中心にベートーベンやヘンデル、モーツァルトなどの音楽をプロの演奏で聴いていただきました。

第2ステージの幕開けは聖歌隊、コリンズ神父のお祈りのあと、女声アンサンブル、混声合唱団と、古今のクリスマスキャロルをそれぞれ歌い最後に聴衆のみなさんと一緒に「来たれ友よ（「Adeste fideles」）を高らかに歌い上げご降誕を待ち望みました。

オルガンチームは、教会行事の節目節目に、祈りと讃美の音楽メディテーションを模索しています。この「クリスマス音楽の集い」は出演者のボ



ランティアで構成し、東日本大震災の被災者のみなさんへの義援金を呼び掛けるかたちで行いました。教会の周辺や外にもチラシを配りPRに努めました。これからも教会らしい音楽活動を広げ、そして深めて行かなければならないと思っています。クリスマスを控え年末多忙な中、精力的に参加して下さった演奏者と、熱心に聴いて下さった聴衆に心から感謝申し上げます。
(オルガンチーム)



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

中高生会

1月13日（日）3学期 始業式

教会学校

1月12日（土）お餅つき&始業式

典礼部

1月19日（土）10時～典礼部会

社会活動部

2月1日（金）初金ミサ後開催

※1月の手芸はお休みです。

広報部

2月2日（土）教会報2月号発行



《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせ

☆ 社会活動部より ☆

1月5日(土) 10時 ♪越冬・越年炊き出し 東遊園地にて、炊き出し(10時～14時頃まで!)

12日(土) 10時 ♪炊き出し(イグナチオお台所) 毎月第2土曜日
小野浜グラウンドにて配食や、おじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。

17日(木) 14時 ♪ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式&茶話会。 奇数月第3木曜日開催。

20日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場(イグナチオホール) お弁当・食料品・手作り作品等。

25日(金) 9時半 ♪ともしび ケーキづくり お台所

☆ チャリティバザー 献金 ☆

多くのみな様のご協力で下記の団体にクリスマス献金をさせて頂きました。
ありがとうございました。



献金先リスト

大阪シナピス関連

- ・難民移住異動者委員会:難民支援
- ・マリアンホーム:緊急避難施設(DV等)
- ・フレンドリー :カトリック障害者を支える会

海外支援

- ・ベトナム青少年育成教育基金:教育支援活動
- ・ベトナムHIVチルドレン基金:HIV感染の子供達の支援
- ・東ティモール学校寄附:学校建設資金
- ・ミンダナオ図書館:戦争孤児・貧困家庭の子供支援

釜ヶ崎関連

- ・旅路の里:釜ヶ崎野宿者支援
- ・子供の里:釜ヶ崎支援(子供)
- ・ふるさとの家:釜ヶ崎野宿者支援
- ・釜ヶ崎ストロームの家:アルコール・薬物依存者の自立支援
- ・釜ヶ崎医療連絡会:野宿者医療相談活動支援
- ・反失業連絡会:釜ヶ崎就労・生活保護制度の実現を目指す会

神戸地区関連

- ・社会活動センター:野宿者・障害者・外国人支援

近隣支援

- ・マブイ六甲を応援する会:障害者・地域活動拠点施設の支援
- ・ひらめの家:精神障害・自立支援・生活介護施設
- ・神戸学生センター:学生・青年の教育、文化の向上に資する事業所

☆ 地区会 ☆ 東灘南地区より

1月13日(日)10時ミサ後の教会新年会・新成人のお祝い会のために手作りケーキの寄付をお願いします。
当日9:30までに厨房へお届け下さい。

☆ 朝の会 ☆

1月第2日曜日はお休みします。

☆ 事務所 ☆

事務受付は、12月29日(土)～1月5日(土)お正月休みです。





みんなの広場

あらたまの

ヨハネ三好榮之助

“あらたまのとしたちかへりあさひさすなみのかなたへいまこきいてむ”

嘗ての読んで字のごとき拙詠だが古来同じ趣の歌は少なくない。拙詠のつもりだが誰かの作であったかもしれない。

「空の彼方真清けく、船路示す海の星。波を蹴立てて我等は行く」（公教聖歌 338）

海の星はマリア様のこと、それなら朝日はイエズス様のこと。海の星を目指して暗黒の海を行き、夜が明けて朝日に向かって更に漕ぎ出す。勇ましいが本当に自力で漕げるのだろうか。腕も櫂も折れてしまうのでは。

“あらたまのとしたちかへりあさひさすなみのかなたへほにかせうけて（あらたまの年立ち返り朝日射す波の彼方へ帆に風受けて）” この方が本当だろう。

新年、元旦と言ってもそれは人間が勝手に付けた区切りにすぎない。神が創造された「時」は永遠に入るまで切れ目なく続く。一瞬一瞬が「過去」になり再び「今」になることはない。

“過ぎ去り消えて行くもののなかにあって、過ぎ去ることのないもののことを静かに考えよう” 「貫く棒の如きもの」を。

“なにことのおはしますかはしらねとも” 人は皆何かが在ることは知っている。だが想いたくない。



教会報 2 月の発行は 2 月 3 日(日)です。 編集会議 1 月 27 日(日)です。 記事原稿は、1 月 20 日(日)正午までに信徒 会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp/	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神 戸 市 灘 区 赤 松 町 3 - 1 - 21
	電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
	F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3
	発行責任者	松 村 信 也
編 集		広 報 部